



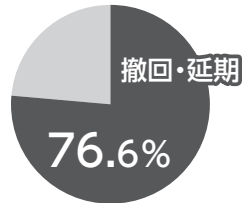
A5判16ページ

## 「だから保険証を残してほしいんです。」 パンフレット活用ください

理事長 小澤 力



### 現行の健康保険証の 廃止について



(共同通信の7月世論調査)

パンフレット1部を今号に同封しています。注文用紙でお申し込みください。

政府が来年秋の現行の健康保険証の廃止を進めている問題で、協会は、パンフレット『だから保険証を残してほしいんです。』7つの視点』を作成した。オンライン資格確認をめぐるトラブルを回避するためだけでなく、国民皆保険制度を守るために現行の健康保険証を残すことが必要であることを解説。小澤理事長が活用を呼びかける。

### 撤回・延期 76・6%

トラブルが多発する中、政府は現行の健康保険証の廃止を目指している。政府の強行な進め方

に不安を覚える国民が多く、現行の健康保険証の廃止について「撤回・延期」を求める声は76・6%に上っています(共同通信7月世論調査)。

### 市民の方にも

協会は、会員への緊急アンケート、国会議員要請、国会閉会中の大阪選出国会議員との面談、府内各自治体への陳情運動、問題点を解説する学習会の開催と講演録を協会機関紙で紹介するなど、現行の健康保険証の撤回に向けて多様に取り組んできました。

### ご注文 ください

このパンフレットは、協会が7月8日に開催した政策学習会「誰のための医療DXか」現状・狙い・課題(講師・公益財団法人 日本医療総合研究所 寺尾正之さん)の講演録をもとに現行の保険証を廃止することの問題点を解説しています。

今号にパンフレット(無料)を1部同封し、注文用紙を添えています。ぜひ活用ください。「現行の健康保険証を残してください」署名も引き続き協力をお願いいたします。

### 東大阪・八尾・柏原地区

## 市長選挙 内海公仁候補を推薦

### 医療・福祉の充実などで協定

東大阪・八尾・柏原地区は、東大阪市長選挙(9月17日告示、9月24日投票)に先立ち、9月7日、東大阪市内で内海公仁候補(明るい東大阪をつくる会)と懇談。

子ども医療費助成制度や歯科健診制度の拡充などの提供体制づくりや医療福祉など社会保障に重点を置いた18項目で政策協定を結んだ。懇談および政策協定調印には、矢部あづさ同地区責任者が出席した。

同地区は、内海公仁、野田義和の2氏に対しアンケートを実施。市民の医療・福祉を向上させる立場から内海氏の推薦に至った。同地区は、東大阪市の全会員を訪問し、支持を訴える。

懇談で内海氏は、市民のくらしと営業に関わる予算を削減し、市民に負担を押しつけてきた現市政を批判。現市政は、水道事業の民営化など民間委託を推進し、大阪モノレールの南伸など大型事業を優先してきた。矢部氏は、「物価高騰に伴い、歯科医院では金バラなど歯科資材の高騰によって歯科医院の負担が大きくなっている。そんな状況でオンライン資格確認義務化が追い打ちをかけた。歯科医院が廃業に追い込まれるという事態になっていく」と歯科医院の窮状を伝えた。内海氏は、「市民からも物価高騰や円安の影響を受けて、緊急の対策を求める声が寄せられている。現場の声を活かした地域医療・いのち・健康を守る」というものである。



協定を結ぶ内海氏(左)と矢部地区責任者(右)、東大阪市内

## 歯科診療報酬の改善をただちに

### ⑥ 保団連歯科医療改革提言のポイント

保団連は、6月25日の代議員会で保団連歯科医療改革提言第3版「歯科医療費の総枠拡大で歯科医療の発展を」を決定した。自治体との交渉や議員懇談でも活用できるよう作成。すべての国民がより良い歯科医療を受けられるよう保団連の目指す歯科医療の姿を明らかにする。保団連政策部員の戸井逸美副理事長がポイントをシリーズで解説する。

### 戸井逸美保団連政策部員が解説

技術料を中心に10%以上の引き上げを  
歯科の初・再診料は医療との間に不合理な格差

が設けられ、診療のための基本的なコストに見合っていない。歯科診療報酬改定では、本体点数の引き上げを伴わず、事実上「廃止」に等しい



「包括」が数々行われてきました。薬剤料や中間材料のコストもただでさえ低い技術料に含むとされています。これらを実情に見合う評価に改めて行く必要があります。

### 歯周病管理を見合っただルールに

現在、歯周病安定期治療(SPT)では3カ月管理のルールが基本となっています。SPTは、基本的に歯周ポケットの深さが4mm以上の患者が管理対象とされています

### 補管は廃止を目 指し技術料の適 正な引き上げを

クラウン・ブリッジ維持管理(補管)は、補綴物の維持と歯牙・歯周組織の維持を意図的に混同、一体化するものになっています。2年間の歯

### 施設基準による 選別やめ、保険 適用の拡大を

エナメル質初期う蝕の管理やSPTなどの日常的な処置、感染防止対策など、全ての歯科医院が行い得る診療や体制に対して異なる評価を与え、差を設けることは誤りです。施設基準の本来の目

科補綴物再製禁止や、未届歯科医療機関への同一処置減算規定などは医学的根拠がありません。クラウン・ブリッジ維持管理料は廃止を目指し、根拠のない制限を改め、適正な引き上げをすべきです。

より早期からの歯科的介入や病態に応じた治療・管理が可能になるよう、新病名の導入と関連した検査や処置、医学管理等の評価を進めるべきです。治療における侵襲の低減や患者の苦痛を極力取り除く観点から、麻酔に係る評価の拡大や高額なレーザー機器による最適な治療などの適正な評価も必要です。

有用な技術の普及を図るためには、保険適用に当たっては、現場が取り組める適切な評価を行うことが必要です。

が、2020年には4mm未満の患者を対象とする歯周病重症化予防治療(P重防)が新設されました。歯周病の病態に照らして、症状が軽快した患者についても引き続き管理できるようになったことは重要ですが、本来は変化する患者の病状に対応し、柔軟な管理ルールに改めるべきです。

合理的でない施設基準による歯科医療機関の選別は撤廃すべきです。

このから逸脱しています。合理性のない施設基準による歯科医療機関の選別は撤廃すべきです。

緊急策として必要。市民と行政の間取りで、『中小企業・モノづくりのまち』の再生を目指す」と積極的な見解を示した。(3面に政策協定抜粋)

### お知らせ

10月から会費改訂  
・正会員6500円  
・勤務医3500円  
詳細は3面へ

### 歯界

三国志演義の中で「七歩の詩」というのがあり。曹操の子で魏初代皇帝曹丕が弟の曹植に七歩のうち一歩に詩を作れ、出来なければ殺すと云ったくだりである。もちろん無理難題を言っている座を争った弟を殺すためだ。その詩の内容は「豆を炊くのに豆殻を使う、豆は窯の中で泣く、一緒に炊くことで、激しく炊き上がる」というものである。これを聞いた曹丕は恥じて弟を許したと云う。日本の殺人で一番多いのは親族間であるらしい。それほど似たもの同士の間には熾烈である。今、ウクライナとロシアの争いは熾烈であり、収まることもなさそう。また憎しみも増しているように思える。周りの国からするとこれほど面白くないことはない。

中国と台湾、韓国と朝鮮、どちらも私からすると周りの国から盛んにけしかけられているように見える。どちらも何の得にもならない戦争などたくないはずだ。ウクライナ紛争の後、次の漁夫の利を狙われているのではないか。(T)

### 求人情報の更新

協会ホームページの求人情報を9月15日に更新しました。  
URL  
http://osk-hok.org/job/